

1 事業名

平成27年度教育事業 「体験の風をおこそう」運動協賛事業  
「体験活動支援セミナー」 ～ドキドキ わくわく ボランティア 秋～

2 趣 旨（事業の目的）

小学生を対象とした事業の企画・運営を行うためのボランティア活動に必要な知識や技能の研修を行い、ボランティアとしての資質の向上を図る。

3 期 日 平成27年9月12日（土）～13日（日）

4 参加者 22名（高校生2名，大学生20名）

5 後 援 岩手県教育委員会

6 連携・協力 盛岡大学

7 内 容

（1）日程

日時	9:20	9:40	10:00	10:50	11:45	13:00	13:30	13:50	15:00	17:30	18:30	20:00	21:00	21:30	22:30	
12日（土）		参加者受付	開会行事	講義 「事業運営及び活動支援についての心構え」	活動内容についての打合せ	昼食	小学生受付	はじめの会	活動1 きらきらの秋① アイスブレイク	活動2 もぐもぐの秋 野外炊事	活動3 きらきらの秋② キャンプファイヤー	入浴	就寝指導	振り返り	就寝準備	就寝
日時	6:30	7:00	7:20	8:45	9:00	12:00	13:00	14:00	14:30	15:00	15:15	太枠で囲まれている部分は小学生との活動				
13日（日）	起床	洗面・清掃	つどい	朝食・休憩	退所点検	活動4 ぺたぺたの秋 創作活動	昼食	片づけ	おわりの会	小学生解散	演習 「活動支援と児童理解」	閉会行事	参加者解散			

（2）・指導者

国立岩手山青少年交流の家

企画指導専門職

鎌田 信 浩

副主任企画指導専門職

中 田 春 輝

事業推進係

及 川 未希生

事業推進係

高 橋 知 也

・指導補助

法人ボランティア

13名

（3）企画のポイント

法人ボランティア向けの事業「ボランティア・ブラッシュアップ・プロジェクト」において、企画会議、事前準備を行い、テンパークちゃれんじくらぶの企画・運営体制を構築した。その際、支援セミナー参加者に対する支援を行うことができるように法人ボランティアの3名を配置した。また、支援セミナー参加者はグループリーダーとして、子供に近い立場に関わる体験ができるように企画した。

（4）広報のポイント

年度当初から、当施設ホームページに事業日程を掲載した。開催要項に関しては、チラシとともに岩手県内の大学・短期大学、高等学校、報道機関に送付した。

## (5) 運営のポイント

第一日目の午前中に実施した「事業運営並びに活動支援についての心構え」の講義では、体験学習サイクルを中心とした体験的な活動を導入に取り入れ、子供と関わる上でのリスクマネジメントに関する内容や、自己成長のきっかけとなる心理学的アプローチを取り入れ、支援セミナー参加者の興味を掻き立てる内容となるよう工夫した。小学生を迎えての活動に備えて、参加者に対するアイスブレイクも交えながら、活動の支援に必要な知識や技能についての研修を行った。また、アイスブレイク等の体験活動を、法人ボランティアがコーディネートすることにより、近い世代の若者が活躍する姿を見て、憧れを抱くような事業展開を心がけた。

さらに、事業の企画・運営についての事前説明及び実際の運営を、法人ボランティアが担当することで、法人ボランティアとセミナー参加者が主体となって活動に取り組めるように心がけた。

一方で、事業のリスクマネジメントの視点から、組織的なキャンプ運営を心がけた。具体的には、法人ボランティア3名が統括リーダーとなり、テンパークちゃれんじくらぶ参加児童の健康調査票をもとに児童の健康面や心理面、保護者からの心配事等を把握することで、支援セミナーの参加者と児童理解を深め、受け入れの準備を整えた。組織構築の中で、参加した子供が2日間、楽しく過ごせるように、支援セミナー参加者と参加児童との関わりに重点を置いた。具体的には、セミナー参加者を、2～3名ずつ小学生の班にグループリーダーとして配置し、統括リーダーがフォローできる体制を敷いた。運営スタッフとして参加している法人ボランティアも、子供との関わり方等についてセミナー参加者にアドバイスを行えるように配置した。

活動の振り返りは、体験活動支援セミナーの参加者も法人ボランティアも、それぞれ別時刻に設定し、子供から大人が離れることがないように配慮した。(補足資料1を参照)

## 8 成果とその普及

体験活動支援セミナーの参加者は、小学生と関わりたいと思う意識の高さが伺えた。グループリーダーとして、子供たちと深く関わり、子供たちと真剣に向き合う中で、子供たちへの接し方やコミュニケーションの取り方など、体験から多くのことを学んでいた。事業の目的どおりの成長が得られた2日間であった。アンケートの結果も大変高い満足度であった。セミナー参加者自身が自分の変容を認識することができ、次の活動への意欲付けになった。この成果を、他施設に普及していきたいと思う。

また、子供と関わる体験は、当施設で活躍する法人ボランティアのきっかけになると考えられる。体験活動支援セミナーを入口とした、当施設での法人ボランティアの拡充も大いに期待できると考えられる。

## 9 今後の課題

体験活動支援セミナー参加者に対して、グループを引っ張っていけるよう、見通しをもたせるとともに、各活動のスキルアップを図る研修や事前のミーティングの時間が十分にとることができなかった。事業に参加することで子供とかかわれることはもちろん、体験活動のスキルを高めていくことにも、体験支援セミナー参加者にとってバリューをもたせていきたい。そうしたプログラムを構成していく上での時間の確保が、今回十分ではなかったように思う。テンパークちゃれんじくらぶに向けた準備や打合せを十分に行う意味でも、体験活動支援セミナーの日程を2泊3日とするなど、参加者自身が意欲と自信をもって子供たちとかかわることができるよう、内容や開催時期等を模索していきたい。



法人ボランティアによる企画説明



子供との出会い（アイスブレイク）



もぐもぐの秋（野外炊事）

補足資料1 テンパークチャレンじくらぶ及び体験活動支援セミナー 組織図

